

# 豊かで幸せな人生100年時代に向けた、恋愛の役割はなにか： 恋愛格差社会における支援の未来形

内閣府 人生100年時代の結婚と家族に関する研究会  
2022年4月7日

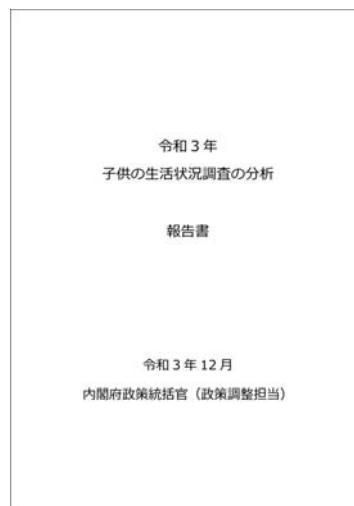
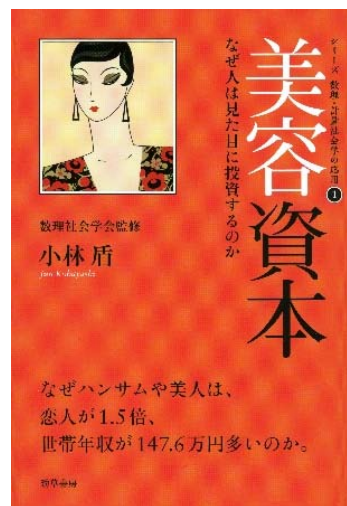
構成員



小林 盾（成蹊大学文学部教授，社会調査研究所所長）

# 自己紹介

- 社会学者, 東京大学, シカゴ大学大学院卒
- 専門は不平等・貧困
  - とくに恋愛と結婚, 美容, 幸福, 子供の貧困
- 手法は統計, インタビュー, フィールドワーク



# 目的

- 豊かで幸せな人生100年時代に、恋愛の役割は
  - 個人の自由だが、希望者には寄りそいたい
  - 統計、インタビューデータから考える
- 恋愛は「幸せのエンジン」かも
  
- 座長として内閣府「令和3年子供の生活状況調査の分析 報告書」刊行（2021年12月）
- 委員として「人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査」データを分析

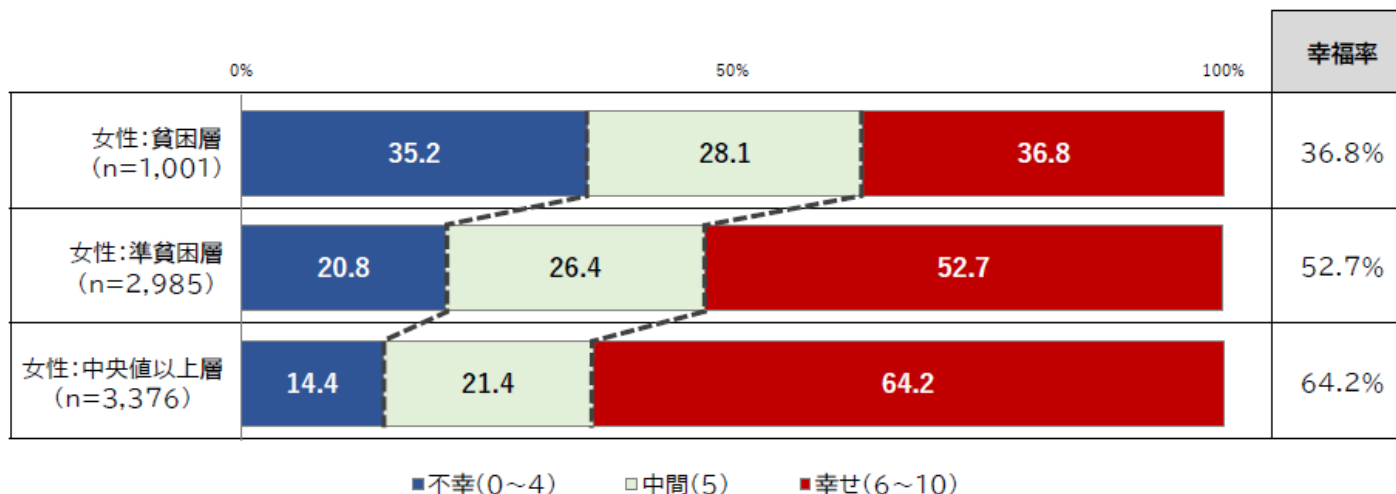
# 報告書紹介1 貧困と幸福率

## □ 貧しいほど、幸せでない (p.126)

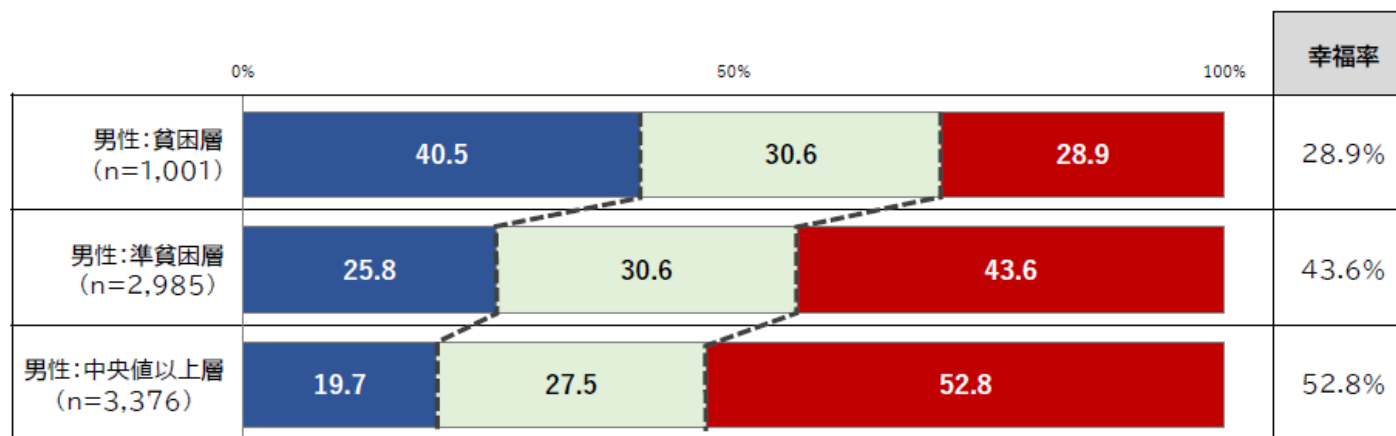
### 【貧困層の幸福度】

※現在の幸福度について、下記の11段階で聞いたものを、不幸(0~4)、中間(5)、幸せ(6~10)の3区分で記載

※幸福率とは6以上の合計



※幸福率とは6以上の合計



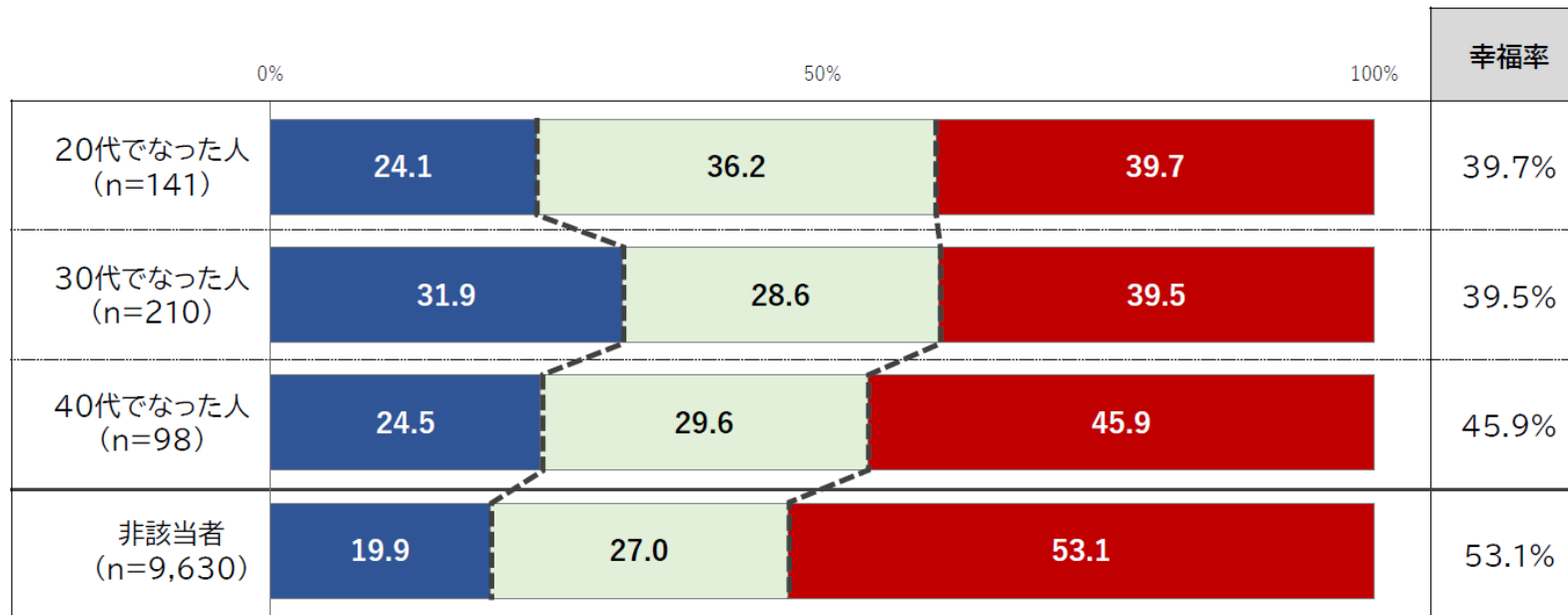
# 2 シングルマザーと幸福率

## □若くしてシングルマザーほど、幸せでない (p.127)

### 【シングルマザーの幸福度】

※現在の幸福度について、下記の11段階で聞いたものを、不幸(0~4)、中間(5)、幸せ(6~10)の3区分で記載

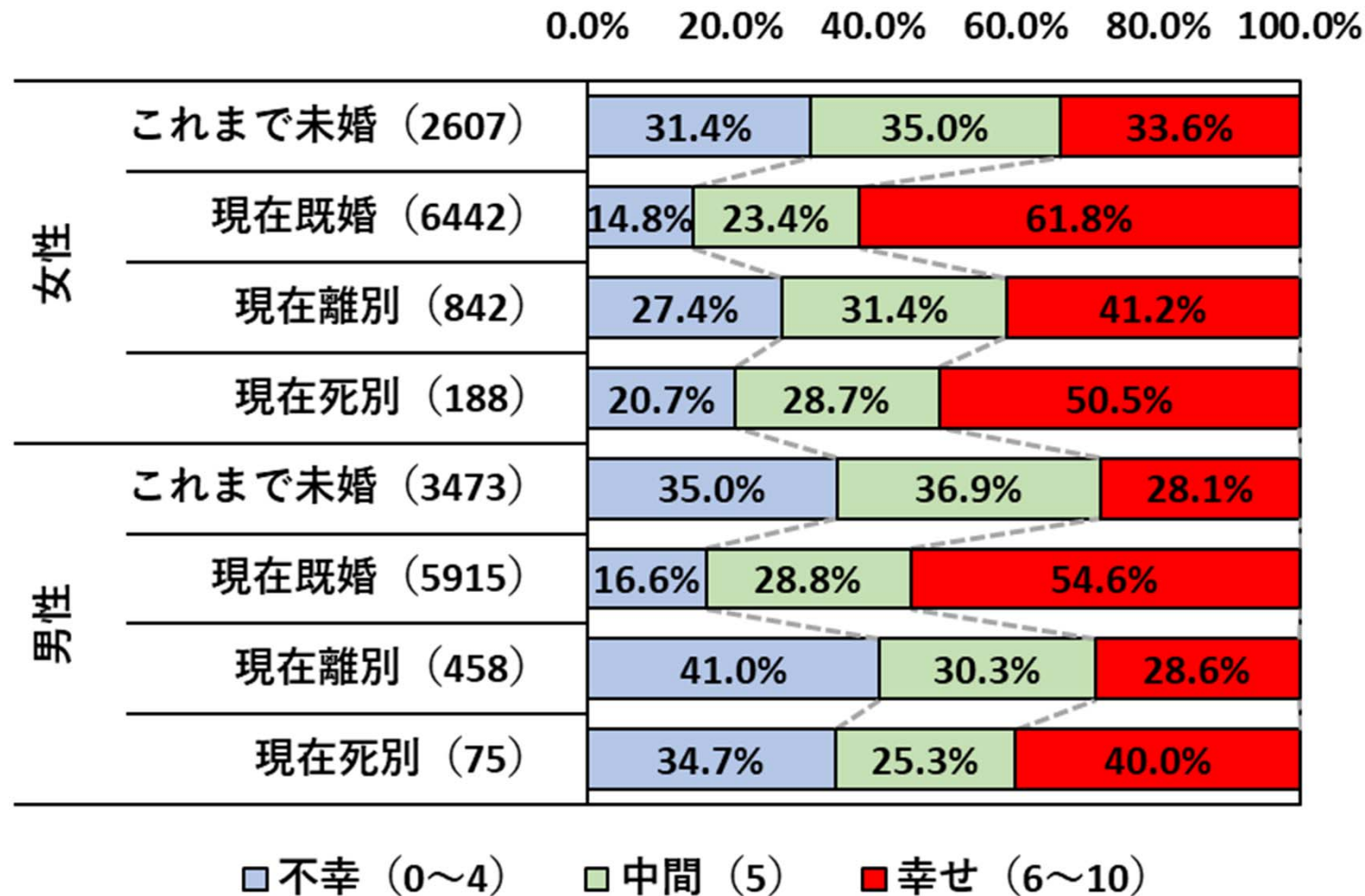
※幸福率とは6以上の合計



■不幸(0~4)    □中間(5)    ■幸せ(6~10)

# 3 婚姻状態と幸福率

□ 現在既婚が幸せ, これまで未婚が幸せでない  
(p.134, 小林まとめ)



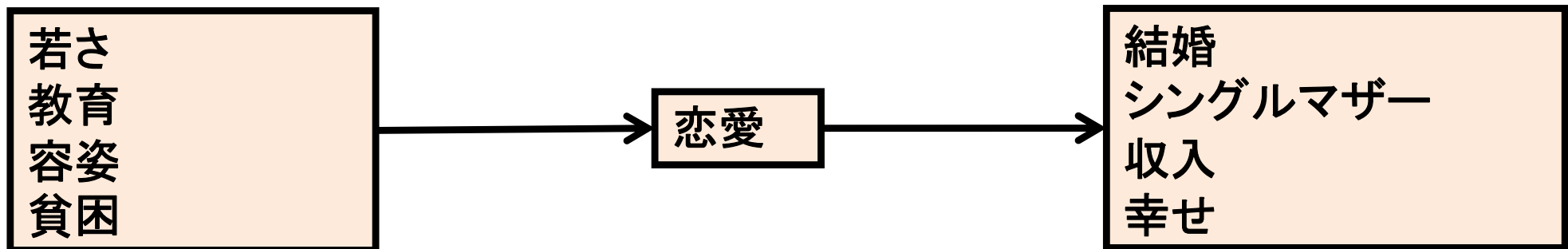
# 3つの壁

- 日本では、恋愛、結婚、出産が強固に結合
  - 恋愛結婚=87.3% (2015年, 出生動向基本調査)
  - 非嫡出出生=2.3% (2019年, 人口動態調査)
  
- 「恋愛の壁」「結婚の壁」「出産の壁」を乗り越えて、子をもてる (小林他『変貌する恋愛と結婚』)
  
- したがって、恋愛は (事実として) 結婚、出産の前提条件

# 理論的フレームワーク

## □そこで、恋愛の役割を検討（男女別，2変数）

- 恋愛の要因として...
- 恋愛の結果として...





# データ紹介

# Q1. 恋愛すると収入, 幸せアップ? 10

## □ (未発表) データ=人生100年時代調査

- 2021年12月27日~22年1月11日, ネット調査
- 母集団=全国20~69歳個人, N=2万

## □ x=(中学卒業~初婚か現在) 恋人人数

## □ y=現在結婚, シングルマザー, 貧困, 幸福率

## □ (参考) 令和3年子供の生活状況調査

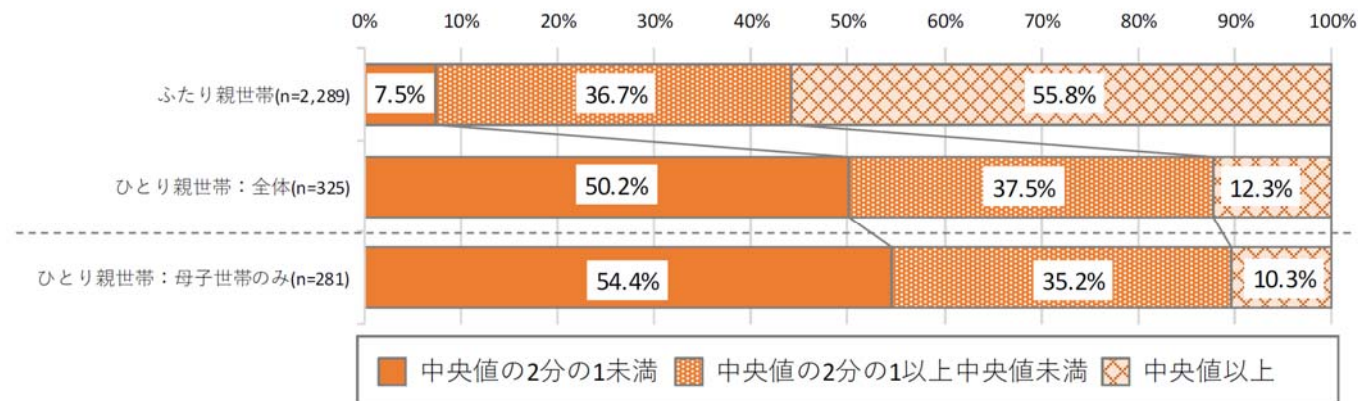
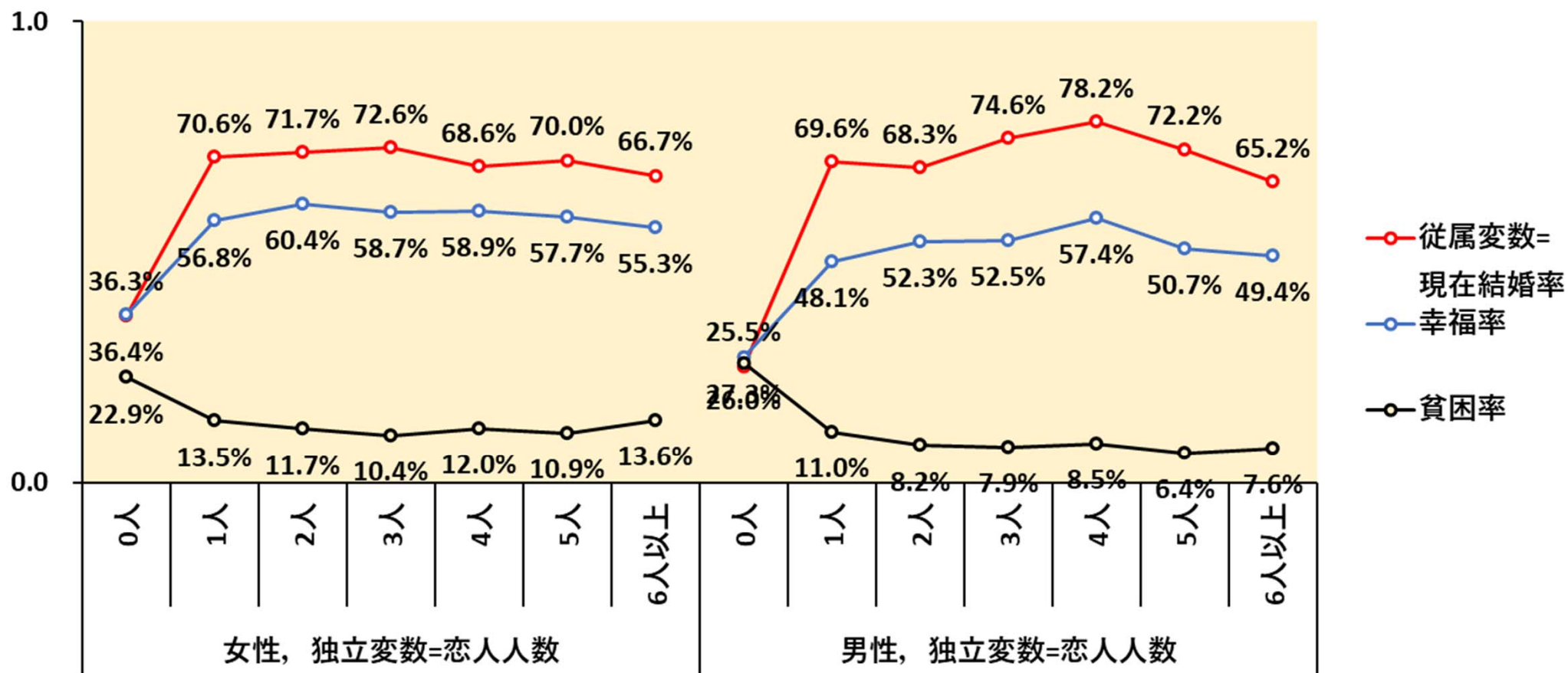


図 2-1-1-3 世帯の状況別、等価世帯収入の水準

# 分析の結果

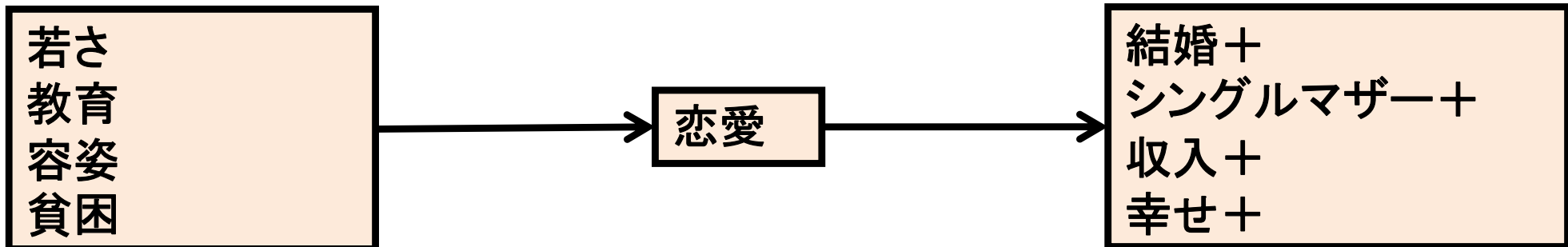
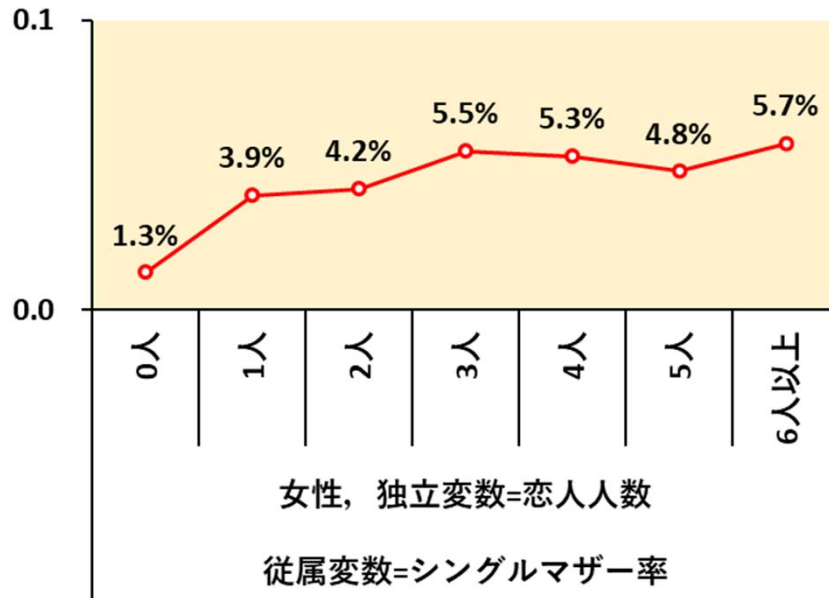
## □男女とも恋人多いほど、結婚し、豊かで、幸せ

- とくに恋人0人から1人でジャンプ(いき値)
- 子人数, 現職正規雇用でも同じ



# ただし

- シングルマザーもふえる～自由な生き方の拡大？
- ともあれ, 恋愛は「幸せのエンジン」

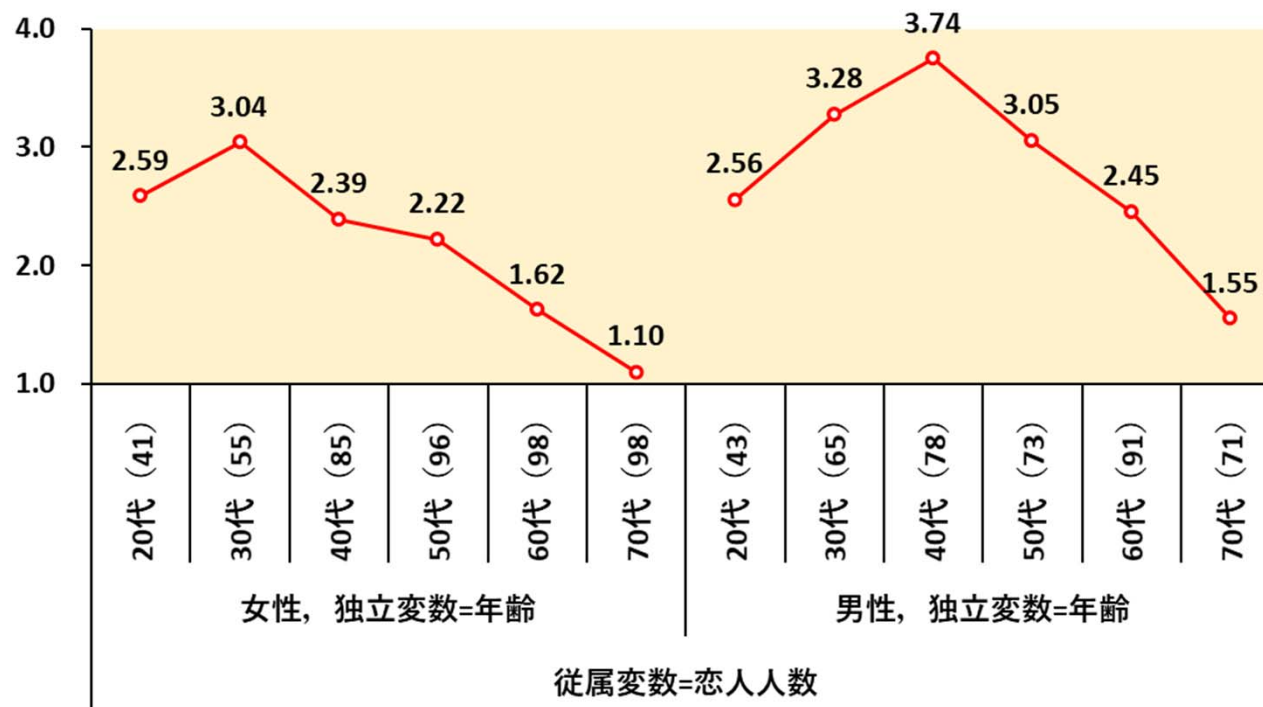


## Q2. 男性は草食化した？

- (『セクシュアリティの人口学』近刊より)
- データ=2018年社会階層とライフコース全国調査 (SSL-2018), 筆者が代表
  - 2018年2~5月, ランダムサンプリング, 訪問面接
  - 母集団=全国20~79歳個人, N=1,126, 有効回収率=40.2%
- $x$ =年齢, 教育年数
- $y$ =(中学卒業~初婚か現在)恋人人数

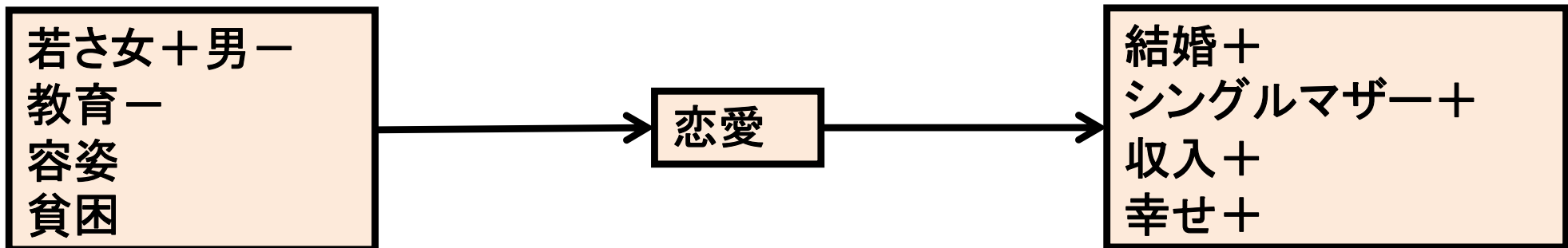
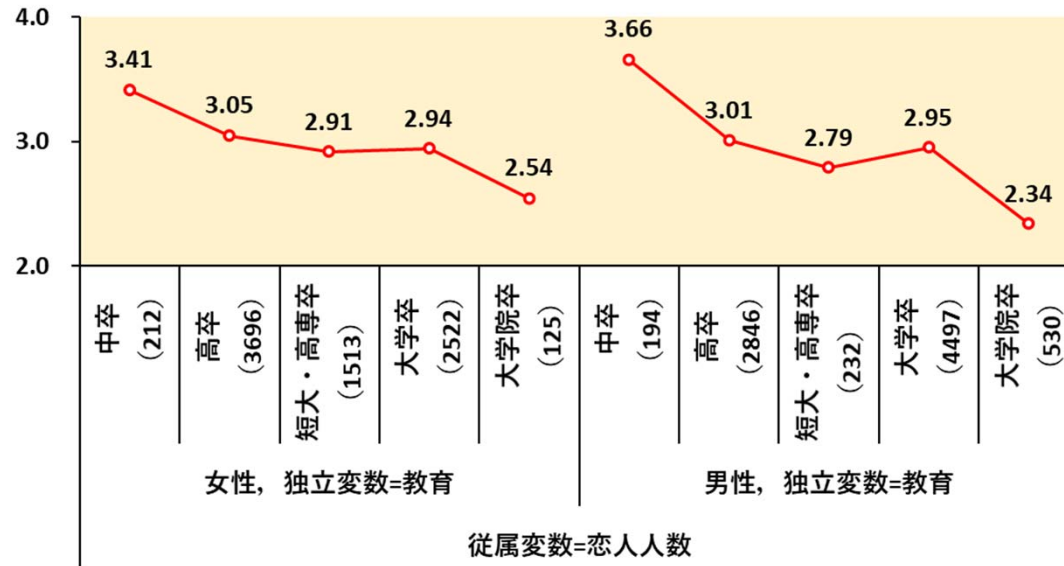
# 分析の結果

- (図5-1) 女性は直線, 右下がり (若いほど恋人多い)
- 男性は二次曲線, ピーク44.6歳 (バブル世代)
- したがって, 女性はむしろ肉食化, 男性は草食化



□教育が上がるほど、恋人減る（人生100年調査）

□したがって、地位の効果は単純でない



# Q3. ハンサム・美人ほど恋愛？

16

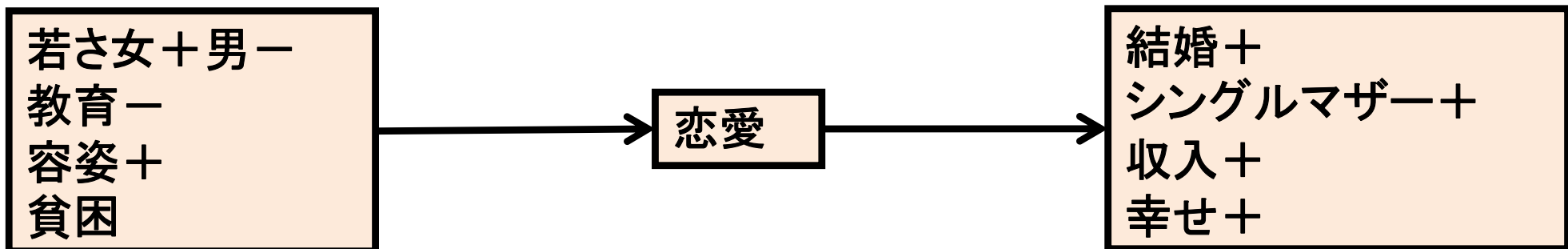
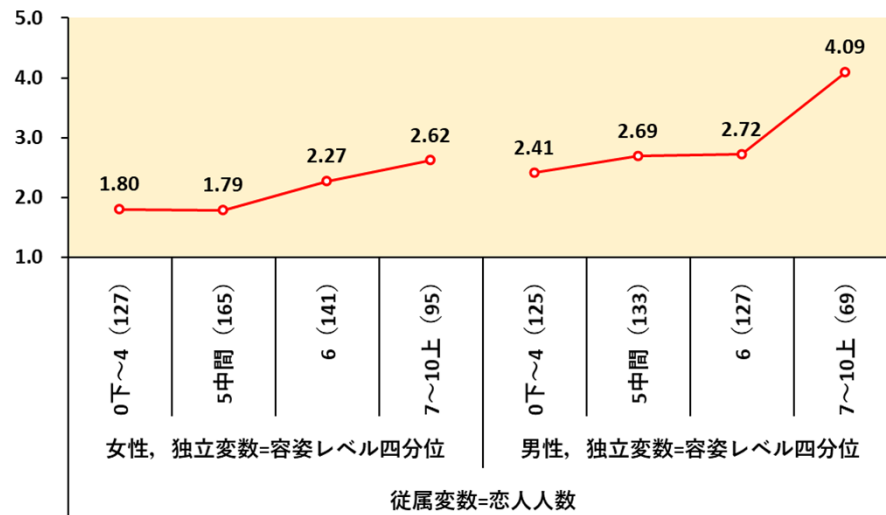
- (小林『美容資本』4章より)
- データ=2018年社会階層とライフコース全国調査,  
2018年嗜好品と豊かさや幸福に関する調査
  - N=2,262, 有効回収率=42.2%
- x=容姿レベル(調査員が評価, 0下~10上)
- y=(中学卒業~初婚か現在)恋人人数



# 分析の結果

□ (図3の男女別) 男女ともハンサム・美人ほど恋愛経験豊か(女1.5倍, 男1.7倍)

● とくに男性で効果が加速



# キャバクラ嬢インタビュー (公開では写真削除) 18

- 「男性はとりあえず清潔感, ぜったいほしいんで」  
(小林『美容資本』)
- 「男性は80キロ, 女性なら60キロ超えたら, もう恋愛の資格ないでしょ」(小林『変貌する恋愛と結婚』)

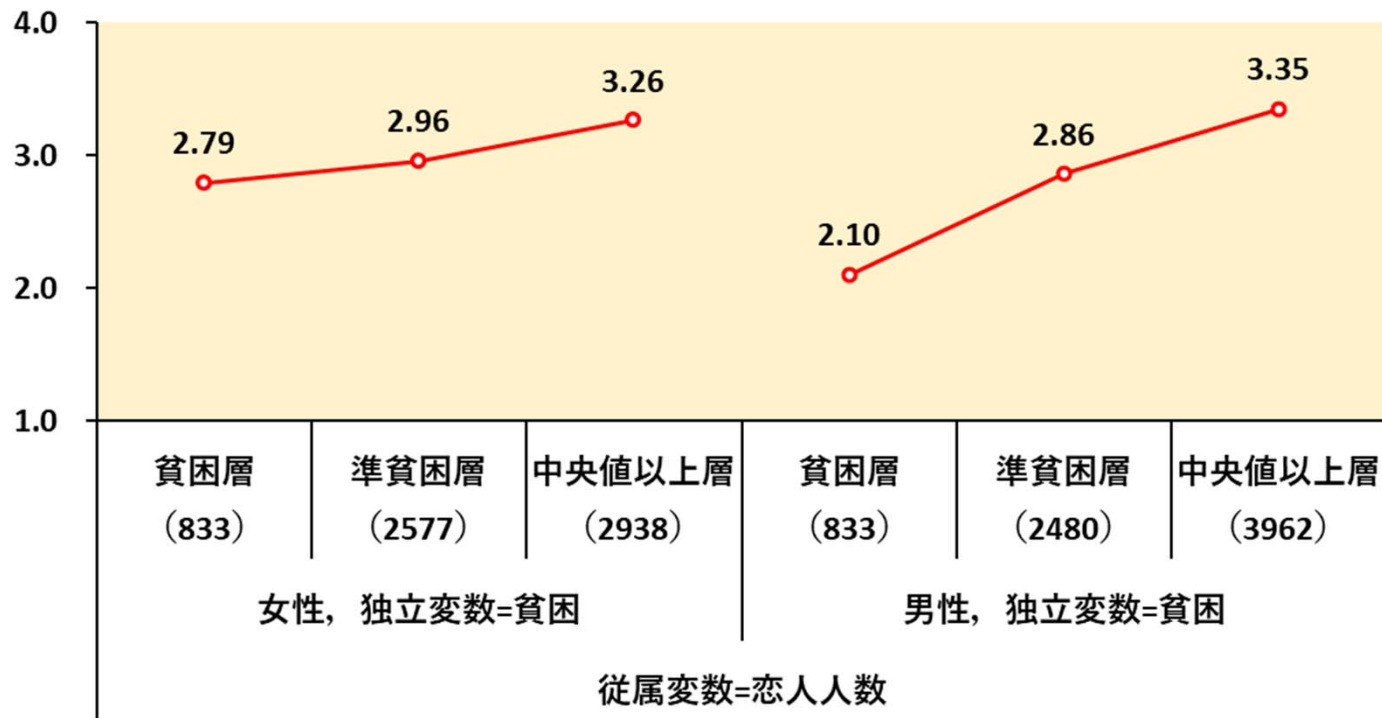
# Q4. 貧しいと？

- (未発表) データ=人生100年時代調査, N=2万
- $x$ =貧困 (等価世帯収入で貧困層, 準貧困層, 中央値以上層, 12.8%, 37.1%, 50.1%)
- $y$ = (中学卒業～初婚か現在) 恋人人数

# 分析の結果

□ 男女とも、貧しいと恋人すくない（最大で女性0.86倍、男性0.63倍）

● とくに男性



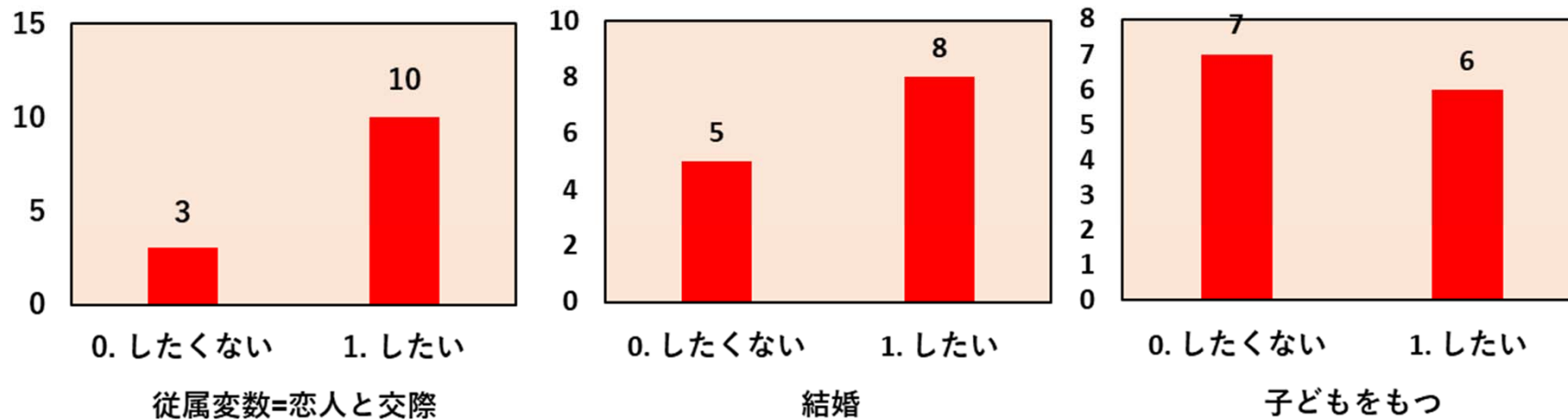
# ただし

- 「現在」収入は, 過去の恋愛の原因とならない
  
- そこで, 中高大学生にアンケートした
- ある困窮家庭のための学習支援事業所, N=13
  - うち中学生11, 高校生1, 大学生1
  - シングルマザー8人, シングルファーザー1人
  
- $y$ =将来の恋愛・家族希望（「将来, 恋愛や家族について~をしたい」）

# 中高大学生アンケート (公開では写真削除) <sup>22</sup>

# すると

□ 恋人希望は8割, しかし結婚は6割, 子は半数以下



□ (10代女性インタビュー) 「親 (の不仲) をみていると, 結婚はどうかなと思う」「子どもが自分より幸せになるより, 不幸になるほうが気になる (ので子を希望しない)」

では、なにがでできるのか？



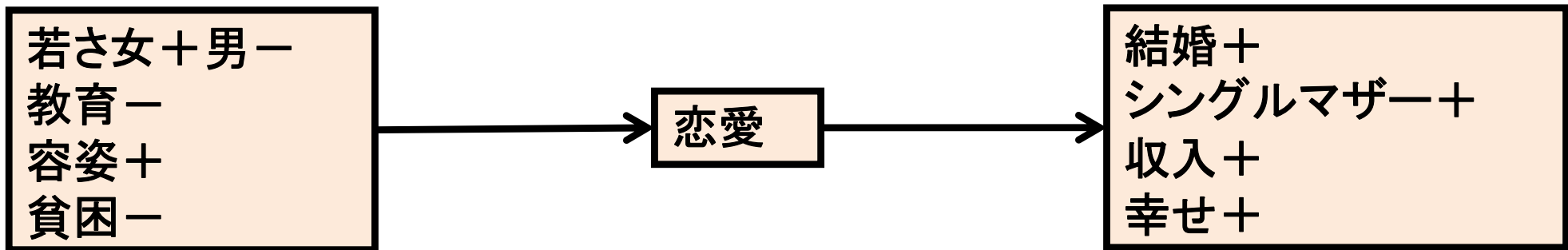
# データから

## □恋愛の役割は「幸せのエンジン」

- 恋愛経験がライフチャンスを広げる

## □しかし、恋愛チャンスに格差がある（恋愛格差）

- とくに男性（二極化か）
- かならずしも高地位が有利でない（教育）



# そこで、恋愛支援

- (60代男性インタビュー)「小学校でチョコもらえないと、ずっともらえない」
- 恋愛格差が(人生100年の間?) 継続するかも
- そうなら、ハンデを是正し、「恋愛弱者」にもチャンス  
を平等化するために「恋愛支援」が必要かも
  - 婚活は恋活(恋愛活動)

# たとえば

## □結婚支援事業に恋愛支援を組みこむ

- セミナー開催（見た目改善・自信・理論など）、アドバイザー養成、テキスト配布, Go To デート

## □教育に組みこむ

- 壁ドン・告白・プロポーズの練習, 恋愛ゼミ





# 課題

## □結婚, 家族の多様化

- 事実婚, シングルペアレント, 子なし夫婦, ステップファミリー
- アセクシュアル, アロマンティック

## □個人化

- 中年未婚者, 生涯未婚者
- 離別後, 死別後の恋愛

## □貧困の影響

□目指すべきは, 恋愛・結婚・出産する人も「しない人」も幸せな社会

# まとめQ&A

## □この報告の目的は？

- 人生100年時代における恋愛の役割はなにか

## □データの特徴は？

- 恋愛経験を人数でとらえる

## □発見は？

- 恋愛の役割は幸せのエンジンだが、恋愛格差がある

## □ではなにが必要か？

- 恋愛したい人への支援